

研 修 報 告 書

令和 7 年 12 月 22 日

伊勢市議会議長 北村 勝 様

会派名 勢風会

議員名 宮本 晃

会派研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 1 研修日時 令和 7 年 12 月 19 日 (金) 13 時 30 分～16 時
- 2 研修場所 JA 鈴鹿本店 大会議室
- 3 研修内容 「未来を育む 農業セミナー」
 - ・みどりの食料システム戦略 (東海農政局)
 - ・バイオマス発電廃棄物の農業利用 (相可高等学校)
 - ・地域資源を活用した持続可能な鶏卵生産
(四日市農芸高等学校)
 - ・スキマバイトの紹介 (タイミー)

4 所 感

・みどりの食料システム戦略に関する研修を受講し、環境負荷低減と持続可能な農業の推進が、地域経済や市民生活と深く結びつく重要な施策であると改めて認識しました。

伊勢市は豊かな自然や農水産資源を有しており、環境に配慮した農業や地産地消の推進を行政が率先して進める意義は大きいと思います。

今後は、農業者の負担軽減や担い手確保にも配慮しつつ、国の支援制度を活用しながら、伊勢市の特性を生かした持続可能な農業施策を行政全体で検討・推進していく必要があると感じました。



・相可高等学校生産経済科の皆さんによる、バイオマス発電廃棄物を農業に活用する取組の発表を拝聴し、地域課題を的確に捉えた実践的な内容に大変感銘を受けました。

廃棄物を資源として循環させる発想は、持続可能な社会づくりに不可欠であり、伊勢市の環境政策や農業振興とも親和性の高いものです。今後の伊勢市行政としては、こうした若い世代の研究や提案を、実証や施策へとつなげていく仕組みづくりが重要であると感じました。

今回の発表は、循環型社会の実現に向け、教育と行政が連携する可能性を強く示すものだったと考えます。

・四日市農芸高等学校農業科学科による、地域資源を活用した持続可能な鶏卵生産の発表を拝聴し、若い世代が地域課題に正面から向き合い、実践的に取り組んでいる姿に大きな可能性を感じました。

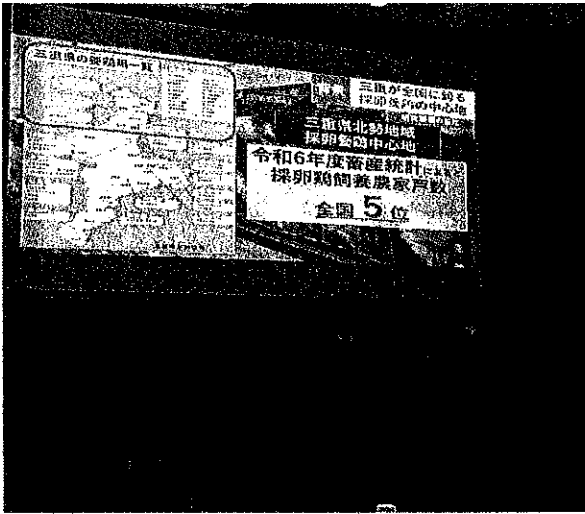
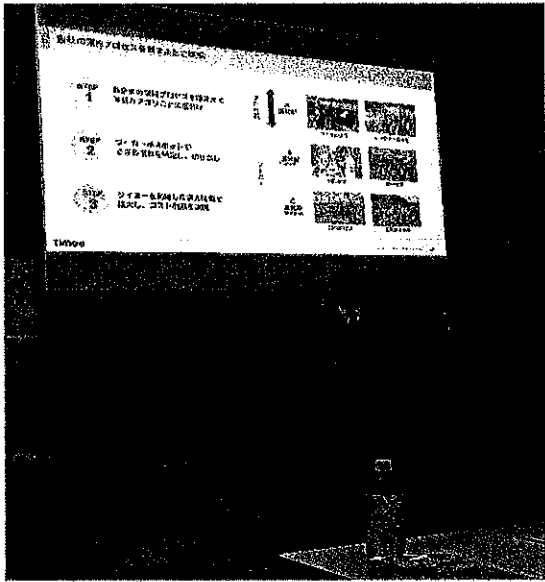
未利用資源を活用し、環境負荷の低減と生産性向上を両立させる視点は、伊勢市が今後進める農業政策や地域循環型社会の構築においても大いに参考となるものです。

教育・地域・行政が連携し、こうした取り組みを次世代の人材育成と持続可能なまちづくりにつなげていく必要性を改めて認識しました。

・タイミーによる農業分野でのスキマバイト活用の説明を聞き、深刻化する農業の人手不足に対する一つの有効な選択肢になり得ると感じました。短期間・短時間の労働ニーズが多い農業現場と、スキマ時間を活用したい人材を結びつける点は、これまで農業に関わる機会のなかった層を呼び込む可能性があります。

一方で、単なる人手確保にとどまらず、関係人口の創出や将来的な担い手育成につなげる視点が行政には重要です。あわせて、高齢農業者へのデジタル面での支援や、安心して受け入れられる体制づくりも欠かせません。

民間サービスの活用を行政がどう後押しし、伊勢市の実情に即した農業振興につなげていくのか、今後も議会として検討を深めていきたいと考えます。



報 告 書

令和 8年 2月10日

伊勢市議会議長 北村 勝様

勢風会 幹事長 吉岡勝裕
副幹事長 上村和生
久保 真
宮本 晃

行政視察・研修に参加しましたので、下記のとおり報告します。

記

研修日時 令和 8年 ① 1月27日(火) 13:30~16:00
② 1月28日(水) 10:00~16:00
③ 1月29日(木) 9:30~11:30

研修項目 ① 商店街活性化施策の取り組みについて
研修場所 ・空き店舗対策・若手事業者支援
東京都台東区 谷中区民館
② 地方議員研究会主催 令和8年度予算審議集中講座
東京都新宿区西新宿 リファレンス西新宿大京ビル
③ 渋谷区ごみ・資源分別アプリの取り組みについて
東京都渋谷区 渋谷区役所

研修概要 ①1月27日(火)
視察項目：商店街活性化施策（・空き店舗対策・若手事業者支援）
説明者： ██████████ 産業振興担当係長（商店街担当）

〈概要〉

台東区商店街事業について、Iでは台東区の商店街について、IIでは商店街振興事業、IIIでは台東区自主事業について、それぞれ説明を受けた。

説明後には、事前質問に対する回答があった。その後、説明内容についての質疑を行った。

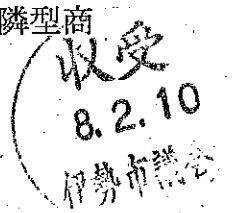
I 台東区の商店街

1 概要

- ・商店街数 106
- ・都内で第4位の焦点が商店街数
- ・1kmあたりの商店街数は東京で第1位

2 近隣型商店街と広域型商店街について

令和3年商店街実態調査を基に、最寄品中心の商店街で地元主婦が日用品を徒歩又は自転車により買い物を行う商店街を近隣型商



店街（37）、百貨店や量販店を含む大型店を有し最寄品よりも買回り品が多い商店を広域型商店街（69）と区分を実施

II 商店街振興事業

1 商店街振興事業の概要

大型商業施設の進出や、通販の増加など商店街を取り巻く環境は厳しさが増している中で、台東区では東京都と連携し、近隣型商店街が実施する商店街振興事業（7事業）を支援実施している。

・イベントの支援事業 ・サービス向上支援事業 ・街並み環境整備支援事業

・商店街外国人観光客おもてなし支援事業 ・魅力ある商店街育成支援事業

・活性化計画支援事業 ・安全安心対応型商店街活性化支援事業

2 補助率について

東京都 1/3、台東区 1/3、商店街 1/3

III 台東区自主事業

台東区独自事業としては、3事業を実施

1 商店街活性化アドバイザー

アドバイザーを派遣し、助言・相談を実施

・継続訪問型派遣 ・ヒアリング調査型派遣 ・商店街巡回相談業務委託

2 商店街個店魅力向上支援事業 逸品紹介冊子「にこまる」にて商店街の情報発信

3 商店街空き店舗活用支援

(1) 家賃支援・・・空き店舗を借りて事業を始める事業者に対し家賃の一部補助

(2) 改修費支援・・・空き店舗を改修する建物所有者に対し、家賃の一部補助

*参考資料添付

・台東区商店街事業について

・台東区商店街マップ

・事前質問と回答

・令和7年度台東区商店街振興事業概要

・家賃支援事業（ビラ）

・改修費支援事業（ビラ）



②1月28日(水)

主催 地方議員研究会

元財政課長から学ぶ令和8年度予算審議集中講座

Office aNueNue 代表 (元福岡市財政調整課長)

今村 寛氏

<講演内容>

議員力を示す質問術

議会で予算を審査するとは

よりよい予算に必要なもの 市民の納得が必要

議会での質疑を通じて行政運営への理解、納得感を高める

行政リテラシーの向上

市民が知りたいこと、知っておくべきことを知る力を高める

対話の鍵を握るのは→議員(自分の代わりに質問してほしい)

市民同士の相互理解に 議員は対話を代行する 演じる

市役所と市民をつなぐのが仕事

予算書全て読まなくていい

1. Action (事業内容の磨き上げ)

それってほんとうまくいくの?

政策 ロジックモデル(論理展開)の確からしさ

成果を測る時期、ものさし、中間評価

また質問するから 職員の取り組みが熱心に

What is it for me? 私にとってどういう意味があるのか

プロジェクトを成功に導くため 当事者意識・協力

実証実験 連携・協力 面白そうですね! 共感

事後確認のために事前確認 → 中間評価

質すことは楔(くさび)を打つこと!

2. Vision (将来像の実現)

全体像 ほとんど質問がない

どんなまちを目指している?

優先順位は市長の気まぐれではない

総合計画の推進に資するとは

総合計画の進捗評価と予算の関係

そのまちは未来の市民が望んでいるのか 将来の市民に

船頭2人 財政課長と情報戦略局長

優先順位 ①総合計画②実施計画③取組方針(重点施策)

3. Flame (枠組みの堅持)

このまま進んでも大丈夫? 毎年予算組める?

中期財政見通しが無いとは言わせない

財政健全化指標はレッドカード

見えない時限爆弾を可視化せよ

「聞いてないよ」にならないように 大丈夫な理由を聞く

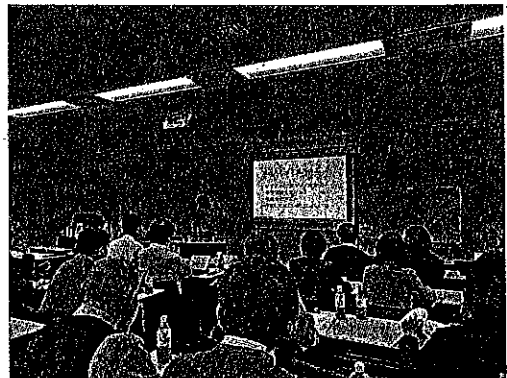
予算審査 チェックポイントをチェック
予算書以外の配布資料は？ 重要施策・記者発表
わからなければわかるように 慣例でしかない
自分がわかるように 資料請求・会派説明（各部署）
議案送付がスタートでいいのか
議会とのつきあい 職員のホンネ
福岡市 会派担当課長の設置 助かる
職員は議会で質問してほしくない
1 仕事が増えるが… 市長も理解 職員頑張る →好都合
2 議会は劇場 演じる ぶっつけ本番より稽古したほうが良い
質疑という好機を逃すな（チャンス）
わかりにくい話題をわかりやすく みんなに聞いてもらう
勉強したことが血肉になり評価になる
組織の意思を確認する絶好の機会
ガチンコでなくて構わない
議会の質問は誰のため
反対よりも効く野党の質問
議場の引き出す言霊の力 議場での発言は取り消せない
答弁は質問者に聞かせているのではない
議場・市民に聞いてもらう
未来の市民との対話のために
一目を置かれる議員になろう
議会での質疑は政策を動かすか
要望が政策が変わるとき
一目置かれる議員とは
職員と対話できる議員
「対話」 議論・会話・雑談ではない お互いに理解しあう
対話が本当に必要なのは誰 市民
対話は社会のインフラ
お互い理解しあえる関係性 心理的安全性
メンテナンスが必要 プロが必要（議員・市役所）
用がなくても定期的に
当局との対話 議員同士の対話 普段から出来ているか
（質疑）
賛成多数で議決されたものに反対の市民、どうすれば
情報の違い 賛成理由を説明する

予算審議を武器に変える
予算が余ることは悪いことか
財政課 余ったお金がどこに行くのか 決算剰余金
翌年度と財政調整基金に（2分の1）
無理に使い切るな・余らせる
議員 経費最小効果最大に 職員をほめてやって
「入るを量りて出ざるを為す」
市税収入が決算で上振れる理由
過剰に見込んで穴が開くだけは避けたい

許されない「足りなければ借りる」という甘え
基金取り崩し・繰り上げ充用
足りなければ足せばいい
赤字国債は麻薬
会計年度独立の原則
財政民主主義（憲法） 財政活動には議決が必要
基金はどれだけあればいい
会計年度独立の原則
現在のサービス vs 将来への備え
貯める金額と使う金額のバランス 答えは議会
やめられない貯まらない
財政調整基金残高を注視せよ
年度間の財政調整を行う最後の切り札
決算剰余金の半分を翌年度に積み立て
予算編成時の財源不足に充てる一般財源
基金残高減少の意味を正しく知る
残高減少は収支均衡が崩れている証拠
要因を把握
借金をしていいのはどんな時
会計年度独立の原則
社会資本整備以外の領域での借金
将来の市民が使うもの 請求書だけが回ってくる
現在のツケを将来に回すことは許されない
優先順位を上げるには
予算査定の時期では遅すぎる
進捗の遅い施策事業を加速するために
予算編成方針はいつ決まる（10・11月）
総合計画、部門別計画の改定をとらえよう
自治体財政知っているようで知らない話
地方交付税 標準的な財政サービスのための財政保障
地方固有財源として国税の一定割合を配分 国の金ではない
普通地方交付税 基準財政需要額と規準財政収入額（地方税の75%） 一般財源 自由に
地方交付税の弱点
国が自治体運営のコストを保証
税収増の25%しか手取りが増えない
過度な制度依存 対象外収入への依存
交付税原資と自治体運営コストの関係性
必要額が確保できないときどうなるのか
臨時財政対策債
国が配るお金を地方自治体が借金 将来の交付税財源の先食い
国の金ではない
交付税措置 交付税は地方の固有の財産
得なのは誰 後年度に元利償還額を交付税措置の意味
朝三暮四に踊らされている
地方交付税は財源保障の仕組みではない

有利な起債の裏側で損するのは
原資が増えないのに財政措置をする意味
包括算定経費が減る
地方は国の誘導する施策の必要性を疑え 緊急防災減災
財源措置 固定経費になる
先にもらうことで自由に使える額が減る
ふるさと納税
経常収支 毎年入ってくる収入で毎年の支出を賄う
稼ぐ自治体というけど ふるさと納税（寄付金）は臨時財源
毎年入ってくるとは限らない
ふるさと納税で給食費無償化？ 基金に積み立てても臨時財源
ふるさと納税は職員の養成所 経済感覚
税財源の代替え
寄付金である
ガバメントクラウドファンディング
経常財源・臨時財源
一般財源・特定財源
自主財源・依存財源（寄付者の意思に依存）
稼がない自治体が稼ぐもの
稼ぐ自治体は本業か
自治体の目的は収益ではなく市民福祉向上
稼ぐに終始することの危険性
過熱するふるさと納税市場に散見されるガバナンスの崩壊
稼がないことで得られる資産
対話・共働による信頼関係の構築 お金をかけずに
経常収支比率に惑わされるな
財政の硬直化を示す 動機づけ
経常収支比率を下げるため？
改善を目標にしない 結果 他市と比べなくていい
比較するなら過去と
何を優先するのか
他都市比較は愚の骨頂
あまり意味がない 違いがわかるだけ
施策事業の横並びはルールではない
行革で施策を見直す競争に勝者はいない
豊かさの錯覚
財政力指数1を上回ることの意味 支出過多は健全ではない
地方交付税が不交付団体
北の大地で
財政危機宣言 近隣自治体との比較？ 行革が目的化？
職員・議会・市民の対話不足
目指すまちの将来像の共有が不可欠
財政危機に陥った理由
収入の範囲で支出を組むというルールを守れず
財政危機はガバナンスの問題 議会
足りないのはお金だけではない

財政危機を乗り切るために
 「足るを知る」自律経営組織へ
 対話が本当に必要なのは誰
 市民の誰かの意見や立場の集約・代弁
 金さえもらえればいいのか
 国と地方のかたちが変わる
 給食費無償化の議論でわかったこと
 国ではなく自治事務なのに 交付税参入 勝手に
 地方自治における国と地方の役割分担とは
 法定受託事務？ 自治体としてはどうか
 地方の税財源偏在を論じる前に
 東京都民は東京のために税を払っているのに？
 地方制度調査会の議論が始まる
 地方の実情を踏まえた議論になるよう地方自治体、議会ができるこ
 とは何か 職員不足？ 国・県？
 (質疑)
 宿泊税について
 納税者の理解が必要では
 福岡市の場合、クルーズ船からの大型バス、インバウンド等の課題
 解決に活用



③1月29日(木)

内容：「渋谷区ゴミ・資源分別アプリ」について

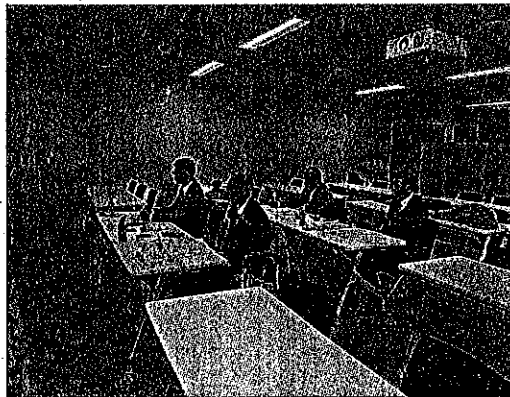
説明：環境政策部 清掃リサイクル課 [redacted] 課長

1. 渋谷区の概要—面積 15.11k m² 人口 231,381 人
2. 渋谷区清掃リサイクル事業—清掃事務所職員 123 人直営車 26 台、直営でない車両も含めると 60 数台が週 6 日収集に回っている
23 区の清掃工場で焼却された後の焼却灰は 23 区の最終処分場に運搬・埋め立てられるがゴミの減量や資源化の取組の効果もあり 50 年は使用できるというが一日でも長く使用するために取組を積極的に進める必要がある。
3. 渋谷区のリユース・リサイクルの取組—衣類・おもちゃ・食器や調理器具まで海外でリユースされる。
フードドライブは NPO 法人を通して必要とされる人に届けられる。

4. ごみ・資源分別アプリについて

導入経緯は令和4年4月1日のプラスチック新法（プラスチック資源循環促進法）によりリサイクル、再利用していこうとなった背景があり分別アプリの導入が始まったが導入数は5000件程、認知不足の解消や利用促進の取組に力を入れていく必要がある。

- ・令和4年7月～ プラスチック資源回収開始
- ・導入コスト 354万円、ランニングコスト 134万円
- ・外国語は英語・中国語・韓国語に翻訳（費用は約200万円）
- ・9/23区が分別アプリを導入
- ・写真でゴミの分別
- ・ごみ分別辞典が最も利用されている
- ・ごみカレンダーは希望者のみ配布 約5万部作成



研修所感
(吉岡)

<台東区>

ショッピングモール・量販店などの大規模店の進出や、事業承継・店舗の賃貸、駐車場の整備等様々な課題があり、伊勢市の商店街は衰退していると感じているが、東京都でも上野のアメ横や浅草の仲見世など活気のある商店街を有する台東区の取り組みを視察させていただいた。

台東区は、近隣型商店街、広域型商店街の106の商店街を有する。おはらい町通りは商店街ではないものの、外宮参道や河崎通りなど観光客をもてなす商店街もあり、伊勢市においても近隣型・広域型等もう少し差別化して考えてもいいのかと感じた。観光客を意識した商店街づくりにも期待していきたい。また、地域の買い物を担う商店街においては、経営そのものの課題や事業承継など様々かと思うが、おかげバスとの連携も面白いのではと思う。

商店街振興のための補助金は、東京都の補助やその上乘せも多くあって様々あり参考にしていきたい。また三重県の補助金についても研究していきたい。また、商工会議所の伊勢まちづくり株式会社やアドバイザーにも期待したい。

商店街の役員さんたちのコミュニケーション向上も活気がある商店街づくりに必要と聞いた。商店街への加入・出店をしたいと思ってもらう環境づくりも必要ではないかと感じた。

先日、新道商店街と宇治山田商業高校とのイベントにも参加させていただいた。高校生によるゲームや空き店舗活用・商品開発などあったが、どのようにすれば継続するのか、商店街が活性化するのかなど、地元の高中生や小中学生や地域のまちづくり協議会などの意見をもらいながら進めてはと思う。

これからの商店街について課題は多いと思うが、頑張る商店街に期待して応援したいと思う。

<研修>

元自治体財政担当職員の講師から、予算審査や職員との関わり方・財政について様々なお話を聞かせていただいた。

よりよい予算に必要なものとして、市民の納得性が重要だとの話があった。予算書全てにおいて、市民が知りたいことを知っておくは大事なことであるが、なかなか難しいところがある。要点をしっかりとらえ、市民の知りたい情報を説明できるよう、勉強していきたい。

また、議員は市民のアバターであると聞いた。議員は市民の代弁者であり、普段から市民の声を市役所に届けることは言うまでもないが、精査も必要である。多種多様な意見に対し、職員と一緒に課題解決に努めていきたい。

講師が言われたように、議会は劇場であるとは同感するところがある。これまで、一般質問や議案質疑を行ってきたが、市の取り組みや考えを市民の方に知ってもらうことは大事なことである。劇場とはいうものの、お互い作文したものを読みあうのではなく、議会としてふさわしい議論が出来るように取り組んでいきたい。

財政健全化についてお話があった。伊勢市も財政調整基金が減ってきている。稼ぐ自治体についても話があったが、自主財源の少ない伊勢市にとっては重要なことではないかと思う。現在の伊勢市では、宿泊税・

宇治浦田の立体駐車場などについて、検討されている。色んな市民の意見を伺っているが、市の課題解決のための財源確保の観点からも伊勢市の予算について考えていきたい。

最後に、「対話」の重要性についてのお話があった。市民・職員・議員間の対話は、重要なことである。間もなく新年度の予算審査が始まるが、対話をしっかり行い、市民の納得が得られるような予算審議となるよう努力していきたい。

<渋谷区>

令和4年度に導入されたごみ・資源分別アプリについて、担当課長から講義を受けた。

伊勢市でもごみ分別促進アプリ「さんあーる」を導入しているが、公式LINEとの連携やアプリの内容はほぼ同様であった。また、導入コスト・ランニングコストについても教えていただいたが、伊勢市の方が低コストであったことは評価したい。

今後は、AIを活用した写真での分別を上げていきたいと伺った。また、不法投棄や民泊からのゴミが課題であると聞いた。

アプリとは関係ないが、衣類・フードドライブ・おもちゃ・まだ利用できる食器や調理器具の分別回収については、面白い取り組みであった。回収に協力してくれる団体あつてのことであるが、可燃ごみにならなくてもいいものはないか、分別によって資源化できるものがないか、参考にしていきたい。

ゴミカレンダーは希望者のみ配布と聞いた。また、高齢者のアプリ導入支援も実施されていた。経費削減の観点からも参考にしていきたい。

伊勢市のゴミ分別促進アプリの普及によって、更なる可燃ごみの減量、資源化率の向上、経費の削減等、期待したい。

研修所感 (上村)

「商店街活性化施策」・空き店舗対策 ・若手事業者支援

○台東区では、令和3年商店街実態調査を基に、最寄品中心の商店街で地元主婦が日用品を徒歩又は自転車により買い物を行う商店街を近隣型商店街(37)、百貨店や量販店を含む大型店を有し最寄品よりも買回り品が多い商店を広域型商店街(69)と区分し、近隣型商店街(37)に対して商店街振興事業(7事業)にて支援を行っていた。

・イベントの支援事業 ・サービス向上支援事業 ・街並み環境整備支援事業 ・商店街外国人観光客おもてなし支援事業 ・魅力ある商店街育成支援事業

また、台東区独自の事業としては、3事業を実施していた。

・商店街活性化アドバイザー

継続訪問型派遣 ヒアリング調査型派遣 商店街巡回相談業務委託

・商店街個店魅力向上支援事業 逸品紹介冊子「にこまる」にて商店街の情報発信

・商店街空き店舗活用支援

家賃支援・・・空き店舗を借りて事業を始める事業者に対し家賃の一部補助

改修費支援・・・空き店舗を改修する建物所有者に対し、家賃の一部補助

私は、近隣型商店街にのみの支援であり、広域型商店街への支援がなく不公平感はないのかと思ひ質問をした。別の支援機構等にて支援をしているとのことであった。

○説明後に谷中銀座商店街を見学した。近隣型商店街とのことであったが、日用品を販売する店舗は、1割程度で土産物や飲食店等に代わり、客層についても外国人をはじめ観光客が多くを占めていた。定義から外れているのではないかと感じた。

○台東区と伊勢市では人口の違い等があり、同じ担い手不足についても全く違う対策が求められていることを感じた。参考となることは少なかった。

「鋭く突く！議員力を示す質問術」「予算審議を“武器“に変える」講師 今村寛

地方交付税の仕組みや弱点について説明を受けた。その中で、国税の一定割合を地方固有の財源として、配分をするだけで財源保障の仕組みではないことを知った。

すなわち、給食費無償化の財源を地方交付税措置されるとのことである。ならば、財源の枠は決まっておりその中から各自治体に配分するだけなので市での財政支出と変わりが無いことが分かった。

同様に、臨時財政対策債についても、結局は将来の交付税財源の先食いであるし、有利な起債についても自治体ごと取り合いをしているだけであることを認識した。

予算審査のチェックポイントについて

- ① アクション個々の施策事業の有効性、効率性の確認
 - ② ビジョン目指す街への道のり（目標・成果）そのための優先順位付け
 - ③ フレーム収支の均衡、財政規律、将来負担の確認
- 学んだことを今後の審査に生かしていきたい。

「渋谷ごみ・資源分別アプリについて」

渋谷区では、新海面処分場が23区の埋め立て最終処分場であり、最後の処分場を一日でも長く使用できるように、ごみ減量や資源化などに取り組まれていた。

リユース・リサイクルについては、分別の種類は伊勢市とほぼ同じであるが、地元で有料で買取をしてくれる業者がありとのことで、衣類(古着)・おもちゃ・食器・調理器具等も分別回収を行っていた。

伊勢市としても、新たな品証の開拓が必要である。

また、令和4年プラスチック資源回収開始にあたり、分別に関する問い合わせの増加等を見込み、ごみ・資源アプリを導入した。

アプリのダウンロード数は、伊勢市が6,000件に対して若干少なく人口比を考えると伊勢市の取り組みは評価できると思うが、更なる取り組みを期待する。

研修所感
(久保)

日時：令和8年1月27日（火）13：30～15：30

場所：東京都台東区

内容：「商店街活性化施策」について

台東区の商店街は上野のアメ横、浅草の仲見世、谷中銀座、御徒町のジュエリータウン、かつば橋道具街など東京第4位の商店街数(106)を誇り37の近隣型商店街と69の広域型商店街に定義分けされている。

商店街振興事業としてイベント支援、サービス向上支援、町並み環境支援、外国人おもてなし支援、魅力ある商店街育成支援、活性化や安心・安全支援事業などを行っています、これらは大型店舗の進出やインターネット通信販売の増加などで商店街を取り巻く環境が非常に厳しく、売り上げが減少していることから商店街の存続、発展に向けた支援が必要であるとの危機感から区では東京都と連携し個性と魅力ある街を目指し商店街が実施する事業を支援しています。

谷中銀座商店街の場合古い町並みにも関わらず商店街の人流が多いことで若い世代の編入など周辺人口も増加傾向で、空き店舗の解消など、商店街に様々な相乗効果をもたらしている。

しかし、オーナーと事業主または店長との意思の疎通や、外国人の違法呼び込みなど、商店街振興会への未加入であったり問題はどこも同じである。

伊勢市の場合、活性化の為には人に興味を抱かせ人を呼び戻す事が肝要であり、人が戻るような支援策を改めて打ち出して行かなければ解決の糸口にもならないと考える、行政側にも新たな風が吹き支援の輪が広がって行き人が戻ることを望むものである。

日時：令和8年1月28日（水）10：00～16：00

場所：東京都新宿区 リファレンス西新宿大京ビル

内容：「議員力を示す質問術」

講師：元福岡市財政調整課長 今村寛（いまむら ひろし）

総合計画で目指す町の形は示されているので総合計画に基づき行政側の取組方針を調査する。質問としては事業が始まる前に確認し（くさびを打っておくことで効果が上がる）何がどう変われば成果といえるのか3年後、5年後にはどうなるのか先を見据えた政策なのかを問うべきであり、それが解るように資料を請求し、会派や少人数グループでも説明してもらおうようにする事が大切である。

日時：令和8年1月29日（木）9：30～11：30

場所：東京都渋谷区 渋谷区役所14階

内容：「渋谷区ゴミ・資源分別アプリ」について

説明：環境政策部 清掃リサイクル課長 [REDACTED] 氏

1. 渋谷区の概要—面積 15.11 km² 人口 231,381人
2. 渋谷区清掃リサイクル事業—清掃事務所職員 123人 直営車 26台、直営でない車両も含めると60数台が週6日収集に回っている

23区の清掃工場で焼却された後の焼却灰は23区の最終処分場に運搬・埋め立てられるがゴミの減量や資源化の取組の効果もあり50年は使用できると言うが一日でも長く使用するために取組を積極的に進め

る必要がある。

3. 渋谷区のリユース・リサイクルの取組—衣類・おもちゃ・食器や調理器具まで海外でリユースされる。

フードドライブはNPO法人を通して必要とされる人に届けられる。

4. ごみ・資源分別アプリについて

導入経緯は令和4年4月1日のプラスチック新法（プラスチック資源循環促進法）によりリサイクル、再利用していこうとなった背景があり分別アプリの導入が始まったが導入数は5000件程、認知不足の解消や利用促進の取組に力を入れていく必要がある

アプリに興味のある方はゴミ問題に関心のある方が多いのでその輪を広げていくことが大切ではないかと考える。

「ゴミを分けるのは市役所の仕事ではない、市民一人一人の仕事である」と言う言葉の通り市民の意識の向上が大切であると考えている。

研修所感 (宮本)

台東区

今回の先進地視察では、東京都台東区における商店街活性化の取組について学ぶ機会を得た。

台東区では、「産業振興ビジョン」を基本に、自主事業として37の近隣型商店街に対し、アドバイザーの派遣等を行い、行政・商店街・民間事業者が役割分担のもとで連携し、地域資源を最大限に活用した持続的な商店街運営が行われている点が印象的であった。

伊勢市においても、歴史・文化・観光という強みを活かしつつ、商店街や関係団体との対話を重ね、地域全体で商業を育てていく視点が今後一層必要であると考えている。

今回の視察を通じて得られた知見を、伊勢市の実情に即した形で応用し、持続可能な商店街活性化施策の検討につなげていきたい。

研修

今回、「予算審議を武器に変える」「議員力を示す質問術」というテーマで研修を受講し、市議会議員としての自身の役割を改めて見つめ直す機会となった。

私は昨年3月末に伊勢市職員を定年退職し、現在は議員として市政に関わっている。職員時代は答弁する側であったが、議員となった今、同じ予算書であっても、その意味や重みの捉え方が大きく変わった。本研修を通じて、予算は単なる数字ではなく、行政の意思や市政の優先順位を読み解く重要な材料であり、議員が市民の視点で問い直すべきものであると再認識した。

また、議員の質問は追及のためではなく、対話を通じてより良い答弁や政策につなげるためのものであり、そこに議員の力量が表れるという点が強く印象に残った。

職員として内部にいたからこそ見えた行政の論理と、市民として外から見える生活実感の両方を理解できる立場にあることは、自身の強みであると同時に、大きな責任でもあると感じている。

今回の研修で得た学びを、今後の予算審議や一般質問、市民との対話の場に生かし、元市職員としての経験と、市議会議員としての視点の両方を活かした議会活動を実践していきたい。

渋谷区

今回の先進地視察では、東京都渋谷区における「ごみ・資源分別アプリ」に関する取組について学ぶ機会を得た。

渋谷区では、分別検索や収集日通知などの機能を通じ、区民が日常的に分別に取り組みやすい環境が整えられており、特に「ごみ・資源分別アプリ」と渋谷区公式LINEアプリを連携しての情報提供に力を入れている点は、分別ルールの周知徹底と利便性向上の両立に寄与していることが印象的であった。

伊勢市においても、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」を導入しており、収集日通知や分別案内など、市民の利便性向上に寄与している。

今回の視察を通じて得られた知見を、今後「さんあ〜る」のさらなる周知方法や利用促進を行って、市民の分別意識向上につなげていきたい。